

「サンデーたまりんば虹にお邪魔して」 矢野明宏

8月26日（日）矢野家4人全員（すべて福祉関係者）でお邪魔させていただきました。

皆さんは、お昼をメドに、集まってこられ、職員さんも交えて、話の花を咲かせます。そして、その輪が次第に部屋中いっぱいにくっつきもできていきました。しかし、それぞれの輪が好き勝手に広がっているのではなく、「その空間を参加者全員で共有している」という雰囲気を感じられ、とても居心地がよく、温かいんです。この日は、高齢者の方だけではなく、ご家族一同で来られた方もいらっしゃいました。まさにそろいもそろった老若男女。そして、私たちもその輪に入れていただきました。しかも、ごくごく自然に...（感謝！）。これが「地域密着」ならではの関係なのだろうと感じました。

私たち家族の感想は「純粹に、笑って、お話をして、楽しかったね」でした。

翌日、この「たまりんば」の良さをどのように応用できるのかを考えながら、それぞれの活動に向かいました。

参加された皆さん、職員の皆さん、ありがとうございました。



サンデーたまりんばの食事風景

矢野明宏様の紹介

高井浩幸・睦美より

矢野明宏様は私ども夫婦の旧知の友人で、現在武蔵野大学人間科学部社会福祉学科の准教授をされております。そして平成24年7月より虹の会の理事に就任していただきました。

新木野高齢者見守りネットワーク活動に参加して

片田清子

虹の家がある新木野地区は平成24年2月1日で高齢化率42%、後期高齢化率（75歳以上）が18%、高齢の独居者が20%（老人人口に占める割合）という地域です。2010年3月、札幌のグループホーム火災があって、虹の家でも地域の協力体制を考えておりました。同年8月市の関係者から、この地域の現状について話し合う機会がありました。一方、2カ月に一度開催される虹の家の運営推進会議でもこの地域の現状を打開すべく、見守り協力員を募って、ご近所でちょっとの気づきをしていこうという方向性が出されました。同年12月4日の自治会主催の防災訓練の折、虹の家の紹介や福祉機器展、車椅子操作方法についての実演の他に、見守りネットワークの趣旨を説明して見守り協力員の募集を呼びかけたところ、80名以上の登録がありました。その後2011年3月11日の震災もあって、益々災害弱者の避難や高齢要支援者の見守りについての関心が高まっていました。

しかし、見守り協力員の活用についての組織をどうしていくかについていろいろ検討した結果、「見守りネットワーク運営委員会」方式で、自治会、民生委員、市高齢者支援課、地域包括支援センター（布佐・新木なんでも相談室）、まちづくり協議会、湖北地区社会福祉協議会、老人会、虹の家も参加して総勢20名の委員構成で、2011年5月から毎月定例会を持って検討してきました。

2012年6月地区の全世帯にアンケート用紙を配布して、見守り協力員と要支援者の登録を求めたところ、205名の協力員と83名の要支援者の登録がありました。

2012年9月23日に見守り協力員の活動発足の会がもたれ、10月の本格的活動が開始される予定になっています。

地域密着型施設の虹の家の運営推進会議を発端としたこの見守りネットワークが実効あるものになるように今後も協力していきたいと思えます。